

「いきぐるしさ」に向かい合う 息苦しさ生き苦しさとともに

*日時

12月13日(土) 12:00 ～ 16:30 (受付開始 11:30～)
14日(日) 9:30 ～ 12:30 (受付開始 9:00～)

*場所 (※1日目と2日目の会場は異なりますのでご注意ください)

1日目(12/13)

県民共済みらいホール
(神奈川県横浜市中区桜木町1丁目1-8-2)
<https://maps.app.goo.gl/NEDVCs7LULnLFFDJ9>

2日目(12/14)

横浜医療福祉センター港南
(神奈川県横浜市港南区港南台4丁目6-20)
<https://maps.app.goo.gl/h5LCXfx75YyDQ4s76>



左記すべて確認可能

*定員

1日目 200名 / 2日目 120名

※先着順

*参加費

両日参加 : 会員 6000円 / 非会員 8000円
1日目のみ : 会員 3000円 / 非会員 5000円
2日目のみ : 会員 3000円 / 非会員 5000円

*申込方法

会員 : 9/ 8(月) 20:00～

非会員 : 9/15(月) 20:00～

下記URL、もしくは右のQRコードから参加申込をお願いします

<https://forms.gle/9VYN6QxsRZdJisUd7>

※申込後1週間経過しても事務局からの返信が無い場合、下記問い合わせ先にご連絡ください



*問い合わせ先

第13回 重症心身障害理学療法研究会 事務局 黒川洋明

Mail : jushin.pt.13@gmail.com

*申込締切

10月31日(金) ※定員に達し次第、申込終了いたします

***プログラム内容**

1日目（対面のみ） 定員：200 名

セミナー1 日目は、重症心身障害のある子どもたちと日々向き合う中で身体的な側面だけでなく、心や生活におけるしんどさにも寄り添い両面からの“いきぐるしさ”に目を向けられる場となることを願い、企画いたしました。

12:10 ～ 13:40 講演

「生真面目に考える排痰の 90 分」

竹本 潔 先生（大阪発達総合療育センター 医師）

排痰困難の本質的・根本的な原因は

①咳の力の不足、②嚥下障害、③姿勢の問題（寝たきり状態）、④気道の加湿不足にあると思います。

本セミナーでは、痰による窒息や、気管カニューレの閉塞、また無気肺を防ぐために

排痰困難の原因別に具体的な対処方法を呈示し

みなさまとともに排痰についてどっぶり考える 90 分にしたいと考えております。

13:55 ～ 14:55 ケーススタディ①

金子 断行（当研究会副代表 株式会社目黒総合リハビリサービス 理学療法士）

15:05 ～ 16:05 ケーススタディ②

榎勢 道彦 氏（四天王寺和らぎ苑 理学療法士）

16:05 ～ 16:30 質疑応答

16:30 セミナー終了

懇親会（自由参加）

18:00 ～ 会場調整中

（JR 石川駅周辺で2時間程度、会費 6000円程度、定員70名）

2日目（対面のみ）アンケートに基づいた各論セミナー（全6講座） 定員：120名

セミナー2日目は、会員への事前アンケート結果に基づき、6つのテーマの各論セミナーを企画しました。

※各講座の定員を設けております。

お申込時に第1希望、2希望(キャンセル待ち含む)をお選びいただき

先着順にて参加講座が決定いたします。

予めご了承ください。

9:30 ～ 12:30 各論セミナー ※昼食時間は含みません

①呼吸・嚥下 （定員：16名）

ヒトは進化の過程で魚類の鰓弓筋から顔面/嚥下/呼吸筋群が分化した。

顔面筋活動で嚥下に必要な鼻呼吸が、呼吸筋による胸郭の挙上で嚥下に有効な胸式呼吸を実現できる。

呼吸と嚥下は相互関連して発達するので、呼吸/嚥下は同時並行治療する。

最終目標は日常的な安静呼吸と唾液の処理能力である。

今回、上気道閉塞と唾液嚥下に対して下顎に焦点化したハンドリングを紹介する。

金子 断行（株式会社目黒総合リハビリサービス）

繁田 圭一（伊豆医療福祉センター）

②姿勢 （定員：20名）

今回のセミナーのテーマは「いきぐるしさ」です。重い障害を持つ人や

子ども達は「いきぐるしさ」、つまり呼吸の問題を持っています。

では、障害のない赤ちゃんの「呼吸」はどのような発達をたどっていくのでしょうか。

2日目の分科会では、赤ちゃんの姿勢発達の観点から、「呼吸」の発達を

実技を通して確認していきます。そして、重い障害を持つ人や子ども達の姿勢発達を再考し

彼らの「いきぐるしさ」の要因や支援について、実技を通して一緒に考えていきたいと思います。

奥田 憲一（九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部）

長谷川 大和（ハビリス横浜）

③シーティング （定員：20名）

シーティングにおける理学療法士の役割を深めるため座位保持装置に関する事例検討

張り調整など機器の体験、評価のポイントなど共有しあい、討論したいと思います。

花井 丈夫（医療法人 拓 能見台こどもクリニック）

岡田 雄一（四天王寺和らぎ苑）

④評価 (定員:20名)

「その人らしさ」を支えるために、私たちは何を評価し、どう深めるのか。

身体の「内」と「外」に目を向け、多様な視点や他者との対話から

新たなとぐちを得ることを目的としたワークショップです。

参加者確定後、事前アンケートを行い、参加者のニーズ等に応じて内容等を変更します。

※本ワークショップは小児リハ経験 7 年目以内の方を想定しています。

黒川 洋明 (島田療育センターはちおうじ)

北山 良平 (広島県立総合リハビリテーションセンター)

⑤地域 (定員:24名)

近年、小児の理学療法士が働く場は多様化してきています。

病院、療育センター、訪問看護、特別支援学校、児童発達支援、放デイ、保育所等訪問、自費サービス等々。働く場所や地域によって求められるものも違い、戸惑いも多いのではないのでしょうか。

このセッションではそれぞれの悩みを共有し、重症心身障害があるこどもや当事者の方々に理学療法士として何ができるのかをテーマとしています。ご参加お待ちしております。

辻 清張 (こども発達支援センター のびろ)

要 武志 (株式会社リ・ハピネス すりーぷーす)

⑥スパイダー (定員:20名)

本研修では、SPIDER の装着方法やコード設定といった基本的な使い方だけでなく

「中動態」と「ゼロキネステーズ」の観点から、セラピストの関わり方そのものに焦点を当てます。

子どもの動きを“させる”のではなく、共に環境をつくり、動きの生成に寄り添う在り方を学びます。

子どもが自らの身体感覚に気づき、能動的に動きを選択できる支援とは何かを考える機会となります。

高塩 純一 (びわこ学園医療福祉センター草津)

上原 隆浩 (枚方総合発達医療センター)